

緑樹

発行者
清川村立緑中学校

6月号

「豊かで平和な心を
創出するために」
校長 市川 美紀子

学校にとって、一学期という期間はとても重要な意味を持ちます。

『四月の感性』と、よく言われるように、入学・進級したことの喜びと並行して、新たな意欲を誰もが抱きます。その気持ちは自分自身で引き上げていかなければ、坂道を転げ落ちるように、あつという間に落ちてしまします。それは、大人も子どもと同じです。ですから、この『四月の感性』を色あせさせることのないよう、私たちも常に新鮮な気持ちで子ども達に接し、日々の教育活動に努めております。

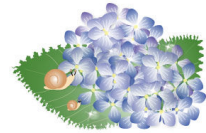
五月には修学旅行や体育大会等、大きな行事もあり、子ども達が目指す友との絆を深める最高の場になりましたが、更に自分自身との絆づくりとして、性教育『生命の誕生』の授業を一年生と二年生の学年で行いました。今回は、両学年とも津金緑養護教諭が担当いたしました。その誠実な語りかけ、授業運びに思わず感動の涙があふれてまいりました。手前味噌ですが、『教育は感動』という言葉が思わず浮かび上がりました。諸外国との比較調査で、世界の

小・中学生の自己肯定感や家族との関わりに関する質問に対して、日本の子どもたちの回答は必ずしも安心できるものではありません。『夢を描けない』、『希望を語れない』と言った実態を見るにつけ、家庭教育とは？ 学校教育とは？ と、考えさせられます。学校では、子どもたちが自らバランスの良い人間に成長していく力を育むために、教科指導、道徳教育、人権教育、進路指導、生徒指導、保健安全指導等、多くの学びの場を設定しています。その中でも性教育は、生き方教育とも言われているとおり、この世に生を受けたことの意味を知り、かけがえない自分という存在を自分の中で明確にしていく作業を伴ったものです。昨今の青少年問題が社会問題として捉えられるようになり久しいのですが、『自分への扱い』を粗末にしている結果とも受け取れます。

誰もが『豊かさ』や『平和』というものを求めますが、学校では、それらの実現に向けて、計画的に系統的に学びを展開してまいります。

『学校へ行こう週間』に限らず、学校は毎日、開放しております。どうぞ授業や部活動等の学びの場にお越しください。

緑中学校は、『大人も子どもも共に育つ学校』を目指します。皆様のご理解、ご支援に感謝申し上げます。



強い団結 深めた絆 団結給食

新年度を迎えた四月より生徒中心の体育大会実行委員会が立ち上がり、様々な活動が開始されました。実行委員は体育大会の企画、運営を行い、昼休みには色別応援練習を、午後の授業や放課後は色別に種目練習をしてきました。また、チームの団結力を高めるため、白組は家庭科室で、赤組はみどりホールで、色別団結給食として食事を囲みながらチームのつながりを強めていきました。



第六回体育大会

五月三十一日（火）第六回緑中学校体育大会が行われました。全校スローガン「全力で作ろう！最強・最高の絆を！緑の心をつなぐ」の元、生徒一人ひとりが主体的に役割を果たしつつ、全校生徒が一丸となり、最高の思い出を作ることができた感動的な体育大会でした。

総合優勝 白組
総合準優勝 赤組
女子一〇〇m走一位 花井星生



男子一五〇m走一位 平田雅貴
女子一〇〇〇m走一位 島廻響
男子一五〇〇m走一位 村上裕貴
組別対抗リレー一位 白Aチーム
笹原和華子 落合龍之介
朝倉爽香 加藤文哉
山口紘加 平田雅貴
応援合戦 優勝 赤組
応援旗 同率優勝 赤組 白組

赤組団長 山口翔
赤組みんなの団結は今までにないくらい最高だったけど、惜しくもあと少しで負けてしまいました。しかし、負けてしまったけど、3年最後の良い思い出になったと思います。

白組団長 畑根椋太

中学校生活最後の体育大会で優勝することができて、とても嬉しかったです。でも、それよりも赤白ともに、勝敗に関係なくみんなが笑顔で終わったのが一番良かったんです。